

園 名：中央区立久松幼稚園 所在地：中央区日本橋本石町4-4-26  
 園長名：川越 裕子  
 園児数 100名 学級数 6 教員数 15名 職員数 18名

**重点目標1**

**幼児が様々な経験の中から、集団生活に必要な習慣や態度、心情を養う。**

(健康な心と体 自立心 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え)

**評価項目**

- ① 家庭と連携を図りながら、集団生活の中で幼児期に必要な生活習慣や態度(道徳性、規範意識、自立心)を身に付ける。
- ② 新しい環境に関わり、自分で考えたり試したり挑戦したりしながら、自分のしたい遊びや興味や関心を追求する楽しさを感じられるようにする。
- ③ 人と関わる際に必要な、正しいあいさつや言葉遣いを身に付け、使うことができるようにする。

**評価指標**

- ① 教師は、積極的に家庭に働き掛けたり必要な資料等を提供したりして、幼児が集団生活を送るために必要な生活習慣の獲得につながるような工夫をしたか。
- ② 教師は、常盤新園舎の環境を生かした遊具の配列や環境設定の工夫をし、その結果、幼児はしたい遊びを十分に楽しむことができたか。
- ③ 幼児が集団で生活をするを通して、年度当初と比較し正しいあいさつや言葉遣いを身に付けることができたか。

**重点目標2**

**幼児の周りにいる様々な人と関わる中で、多様な経験ができるようにする。**

(協同性 社会生活との関わり 言葉による伝え合い)

**評価項目**

- ① 小学生(久松小学校・常盤小学校)や保育園児、地域の方など、幼児の身の回りにいる様々な人と関わる機会を意図的に設け、その中で自分の思いを出せるようにする。
- ② 園内のいろいろな場所で遊びが展開できるような新たな環境設定を工夫したり、「おひさまタイム」を計画的に実施したりし、幼児が園内のいろいろな幼児と関わるができるようにする。
- ③ 様々な人との関わりの中で自分の心持ちの変容を感じ、自尊心や成長を感じられるようにする。

**評価指標**

- ① 教師は幼児に、様々な人(異年齢幼児・小学生・地域の方・保育園児など)と関わる機会を豊かに提供していたか。
- ② 様々な人と関わる中で、幼児は相手に伝わる方法(言葉や表情、製作物など)で自分の思いを相手に伝えようとしていたか。
- ③ 幼児は様々な人と関わることを喜び、自己の成長や役に立つ喜びを感じていたか。

**重点目標3**

**常盤園舎の移転を喜び、新しい生活を幼児と教師が創っていくことを楽しむ。**

(社会生活との関わり 自立心)

**評価項目**

- ① 常盤新園舎での生活を喜び、興味をもって新しい環境に関わることを楽しめるようにする。
- ② 常盤園舎での新しい生活について、保護者に十分に説明し、理解や協力を得る。

### 評価指標

- ① 幼児は新園舎での生活に移転前から期待をもち、さらに移転後は、新しい園舎での生活を楽しみながら、必要に応じてきまりをつくったり新園舎ならではの遊びを展開したりしたか。
- ② 幼稚園は、園舎移転についての必要な情報を迅速かつ丁寧に地域や保護者に伝え、それによって幼児や保護者は安心して移転に臨むことができたか。

### 重点目標 4

幼稚園と家庭・地域とが連携し、「共に子育て」という意識を共有し、子育てを充実させる。

(社会生活と関わり 地域や家庭との連携)

### 評価項目

- ① WEB や紙面、園公開日、保護者会、面談等を活用し、新園舎での生活や教育内容や幼児の育ちを保護者・地域へ分かりやすく発信できるように工夫する。
- ② 未就園児の会「なかよしランド」の内容を拡充させ、地域の幅広い年齢の乳幼児のよりどころとなるようにする（未就園児保護者に評価を仰ぐ）。

### 評価指標

- ① 幼稚園は、特に新園舎移転後に、連絡アプリや ICT 機器を活用し、園での生活の様子を詳しく分かるように発信したり、園の様子を知る機会を工夫してつくったりしたか。
- ② 保護者や地域は、①のことにより、移転後の生活の様子を知ることができ安心につながったか。
- ③ 未就園児の会の内容を拡充させ、未就園児の保護者が幼稚園に来ることを楽しみにしたり入園に安心や期待をもったりすることにつながったか。

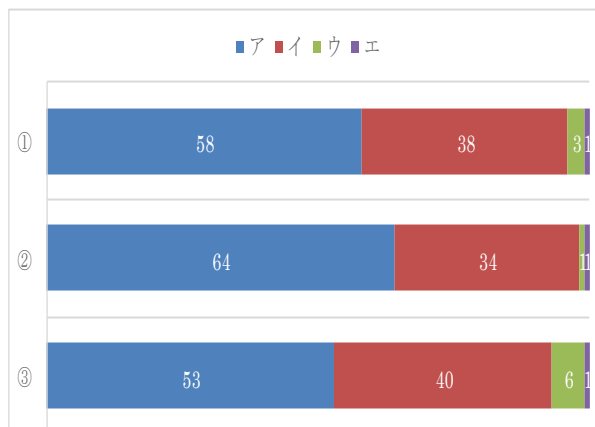
### 教員・保護者への評価結果から分かったこと

#### 1. 保護者の評価より

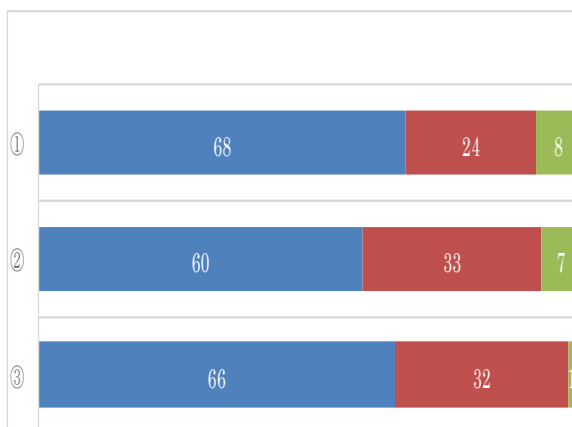
ア：そう思う イ：ややそう思う ウ：あまり思わない エ：そう思わない

#### (1) 重点目標について

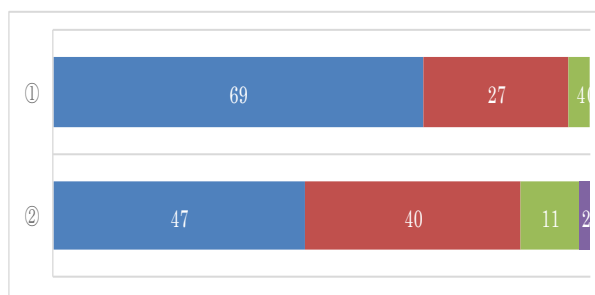
##### 重点目標 1



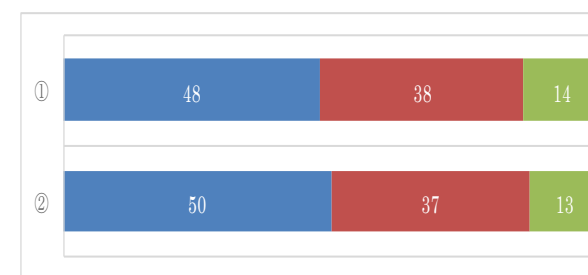
##### 重点目標 2



##### 重点目標 3



##### 重点目標 4



### 【分析】

- 概ね、肯定的な回答が9割近くを占めるが、昨年度までの回答と比較し、ウ：あまり思わない エ：そう思わないの回答の割合が多くなっている。設問が異なるため比較はできないものの、園の活動について低い評価をする保護者が増えていることが分かる。
- 特に否定的な評価があった重点目標3は、「園舎移転について」である。バスの運行について事前に詳細を知らせることができなかったこと、移転後、幼児の生活の様子が移転前に比べて分かりにくくなったことなどの不安が、評価に表われている。
- 重点目標4の「地域・家庭との連携」については、昨年度と比較し、ア：そう思うの割合が減少している。ルクミー等で幼児の様子を発信しているものの、「我が子の様子が知りたい」という保護者の期待には十分には応えられなかったことが分かる。

### (2) その他の項目について（昨年度と比較し、特に評価が低かったもの）

#### Ⅳ 教育活動及び行事について

- ② 教師の幼児理解
- ④ 園の相談機能
- ⑥ 保護者参観や参画の機会の提供
- ⑧ 安全指導

### 【分析】

- 移転により、保護者と幼児のことを話す時間や実際の幼児の姿を見る機会の減少したことが、保護者の不安につながっている。

### (3) 自由意見より

#### <教育活動について>

- ・知識の広がりや探求する楽しさを感じさせてほしい。
- ・園の様子をもっとルクミーで配信してほしい。
- ・ルクミーで連絡事項が多い。リマインドメールがほしい。

#### <移転について>

- ・バス内の置き去り防止の訓練を計画してほしい。
- ・兄弟関係があるため降園時刻に差がある。待てる場所がほしい。
- ・移転後、様々な連絡が直近で分かりにくい。

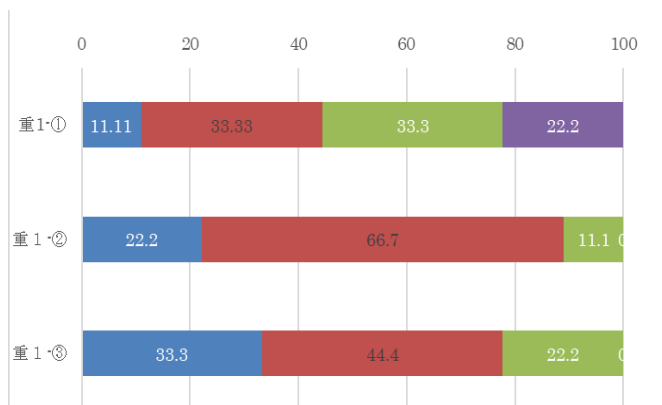
### 【分析】

- 移転に伴う保護者の不安が自由意見も多く見られた。
- 連絡事項については、バス通園に加えて預かり保育が始まったことで、担任から保護者への情報量が確実に減り、そのことが不安につながっている。特に、預かり保育利用者で、かつ預かり終了時にバスを利用する保護者は、担任とは登園時にしか合えないため、十分な情報共有ができない。そのことが強く不安につながっていると考えられる。

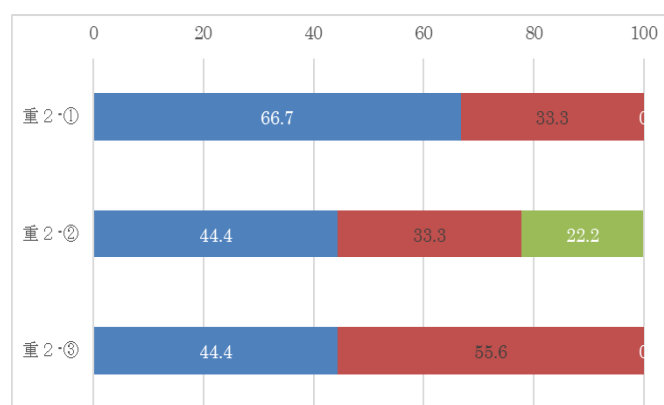
## 2. 教員の評価より

### (1) 重点目標について

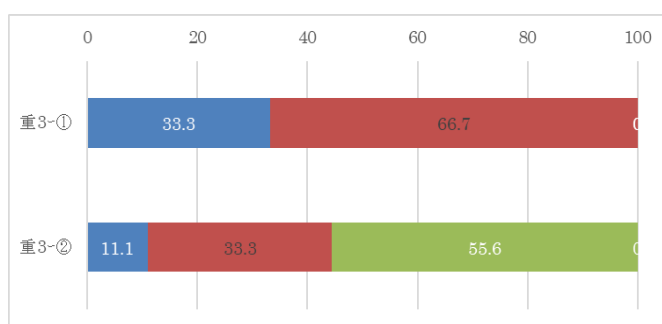
重点目標 1



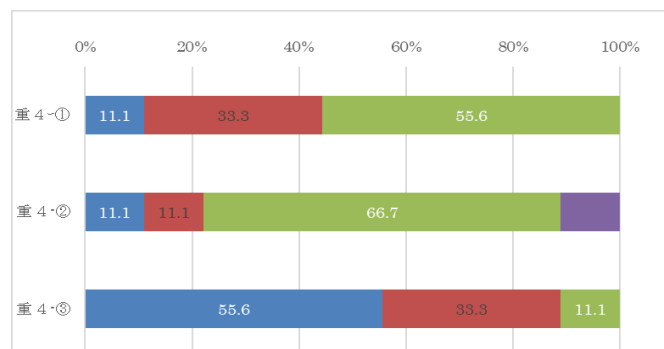
重点目標 2



重点目標 3



重点目標 4



#### 【分析】

- 保護者評価と同じ傾向があり、重点目標 1-①「家庭との連携による生活習慣の確立」重点目標 4-②「教育活動の保護者への共有」の評価が低かった。教員が伝えようとしたことが、保護者に十分に伝わったという実感がもてなかったことが分かる。
- 重点目標 4-③「未就園児の会の充実」については、フリーの教員（バス担当）が丁寧に計画立案、実施したことで、参加者も増え、そのことが手応えとなって評価に反映されている。

### (2) 特色ある園づくりのための基本方針（特に評価が低かったもの）

#### Ⅲ-③移転後の教育活動の工夫

- ④異年齢のとの交流
- ⑤多様な運動遊びのための環境の工夫

【分析】移転に伴い、これまでできていた教育活動が今まで通りにはいかないことへの不安や反省が評価として出ている。

### 3 今後の改善方策

#### 保護者への情報の発信の工夫

- いろいろな立場からの発信の工夫
  - ・担任＝ルクミー、降園時に話す。
  - ・主任、園長＝行事のことについて意図などを口頭で伝える 等
- 直接会った時に話せる機会の創出
  - ・バスの時間の見直し
  - ・全体の活動に対しては、ルクミーで伝える、ルクミーの頻度を変える
  - ・個の様子については、順番に話す、登園時の活用
- 保護者からの発信…メモの活用 久松小玄閣に設置

#### ◎令和7年度の教育活動において大切にしたいこと◎

##### ①常盤園舎での生活を確立させながら、集団生活に必要な習慣や態度、心情を養う。

(健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え)

- ・いろいろな人へのあいさつ
- ・常盤園舎での安全／バスの安全な乗降車の仕方
- ・常盤園舎の環境を生かした運動遊びの充実
- ・必要な生活習慣の確立

\*新園舎2年目であり、教師も常盤園舎の特徴を捉えながらよりよい生活の仕方や環境設定を確立する。

##### ②好奇心や探究心をもち、自分の関心のある遊びに継続的に取り組むことを楽しむ。

(思考力の芽生え 協同性 社会生活との関わり 言葉による伝え合い)

- ・幼児が好奇心や探究心をもてるような環境の提供
- ・教師が「おもしろがって」保育を進めていこうとする主体性
- ・プロジェクト的に遊びを展開することのできる力の育成

\*「すくわくプログラム」実施期間を長期的に見通し、幼児の探究心を継続的に育む。  
\*教師の探究心を積極的に発揮し、子どものやっていることを面白いと思えるように研鑽に励む。

##### ③様々な人との関わりの中で、自己を発揮し、様々な感情を体験する。(社会生活との関わり 自立心)

- ・学級や学年の友達の関わりの中での様々な感情の体験
- ・異年齢、異校種の人との関わりの充実
- ・地域の人との関わりの中での好奇心の醸成

\*いろいろな人と関わる中で多様な心情を経験できるような機会を提供する。特に「おひさまタイム」の充実に力を入れ、地域に戻ったときにも「仲間」であることを感じられるようにする。

##### ④幼稚園と家庭・地域とが連携し、「共に子育て」という意識を共有し、子育てを充実させる。

(社会生活と関わり 地域や家庭との連携)

- ・ルクミーを中心とした園の教育活動の発信強化
- ・子育て支援の充実／共働き家庭への支援の充実
- ・未就園児の会の回数と内容の充実

\*登降園時刻や保護者の送迎の時間を見直し、担任と保護者が顔を合わせて話をすることのできる機会を保障する。

\*未就園児の会を充実させ、保護者ニーズに応えながら子育ての楽しさを知らせていけるようにする。

